

いもう 葦毛通信



ヤマトタマムシ

令和元年12月17日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 89

1、2019モニタリング報告-6

1) 二の沢 (T・U地点)

二の沢は 2015 年度に木の伐採を行い、2018 年度にバックホーによる抜根作業を行いました。下左写真は木の伐採後3年目の状態で、切り株からヒコバエが伸び、ネザサが繁茂し見通しが利かない状態になっていました。下右写真のように昨年度にバックホーで抜根作業を行ったところ植物が全くない裸地の状態になりました。

年度ごとの動物調査の結果からも、木の伐採後は明るく開けた環境になりヒコバエや草が伸びて動物にとって良好な状態になったようで、特にノウサギの撮影回数が顕著に増えました。しかし、下左写真のように伸びすぎて見通しが悪くなると動物の撮影回数は目立って少なくなりました。



抜根前 (北から: 2018年9月23日)



抜根直後 (北から: 2019年3月19日)

右写真のように今年度は抜根後1年目で発芽する植物もまだ少ない状態です。抜根直後は植物が少ないためか4月～9月は動物の撮影回数も少なく、1～8回で平均4回でした。しかし、10月は14回、11月は15回に増え、その大半がノウサギでした。来年度は一年を通して動物の撮影回数が増えると思われています。



抜根後1年目 (北から: 2018年9月16日)

2) P地点

P地点は完全に森林化していた部分です。昨年度木の伐採とバックホーによる抜根作業を行いました。右上写真は抜根直後の状態で、植物がほとんどない裸地の状態です。

右中写真は抜根後6か月目の状態です。画面左側は水分が多く湿地に戻るところ、画面中央から右側はやや高くなって乾燥しており草地になるところだと思います。奥の右端に抜根した根を積み上げた山の一部が見えていますが、この山の右側には水路が造られており、この周辺は水分が多く湿地に戻るところです。今年度の作業で根の山を除去して湿地に戻す作業を行う予定です。

この抜根した根を積み上げた山からは根に付いた土に含まれていた埋土種子から多くの植物が発芽しました。4月には、山の頂上からミカワバイケイソウが発芽し、山裾の部分ではハルリンドウが開花しました。右下写真は発芽したミカワバイケイソウやハルリンドウを採取しているところで、抜根した湿地部分に植え戻しました。

この根の山からはヌマガヤ等の湿生植物や在来種の乾地性植物が発芽しました。また、ダンドボロギク、メリケンカルカヤ等の外来種も発芽して、月1回の定期作業でボランティアの方々と除去作業を行いました。



抜根直後（西から：2019年3月19日）



抜根後1年目（西から：2019年8月15日）



積み上げた根の山（西から：2019年4月9日）

3) ヤクシソウの出現

今年イヌノハナヒゲが大きな群落を作ったO地点は 2017 年度に木の伐採と抜根を行い、北側の水路沿い（Y地点）には抜根した木の根を積み上げてありました。この根の山から、ヤクシソウ（右写真黄色の矢印の下部）が発芽し開花しました。

ヤクシソウは、これまで葦毛湿原では記録がなかった植物です。抜根した木の根を積み上げてから2年目に発芽しましたが、これが埋土種子からの発芽



ヤクシソウ（南東から：2019年11月1日）



ヤクシソウ近景（2019年11月1日）



開花状態

なのか、周辺地域から風で飛んで来たのか、また鳥が運んだものなのかは確認できません。周辺の山にはあるようなので、現在ある自生地から運ばれたものである可能性は否定できませんが、出現の状態が2×1 m程の範囲に多くの花を咲かせましたので、複数の埋土種子から発芽した可能性も十分に考えられると思います。

2、2019年度作業報告－1

1) Q・R地点（旧水田）

Q・R地点は石垣で区画された大規模な旧水田部分で、一部でスギが植林されていました。水田は石垣が崩れ、水路が埋まり、乾燥化しており、コシダやウラジロ、ネザサが繁茂し、薄暗い森になっていました（次頁作業前写真）。東から伸びる水路が二股に分かれその間に水田が造られています。北側の水路沿いにはハンカイソウ、ミカワバイケイソウ等の湿生植物が見られましたが、ごく一部の部分でした。

今年度の作業でこの部分を明るい森にして、一部の水田は石垣と水路を補修して一年中水が保たれた状態を復元する予定でした。作業を進めると北側の水路沿いに小区画の水田跡があり、この部分が低くなっており一部に冠水した部分が見られました。冠水した部分は良好な湿地に戻ると予想できるようになったので、南側の木をできる限り伐って明るくして北側の湿地として復元できる部分の日照を十分に確保できるようにしました。

下左写真はR地点を西から見たところで、作業前はウラジロの大きな群落になっています。下右写真は現在作業中の状態ですが、木の伐採と除草をしてかなり明るくなっています。地表面には枝や葉が溜まり、水路が壊れて水が入らなくなっているために乾燥しています。水路を修理して水が入るようになれば湿地に戻ると予想しています。



R地点作業前 (2019年9月21日)



R地点作業中 (2019年12月10日)

下左写真は中央広場からR地点を見たところです。画面中央に石垣の跡があり、全部で5段ほどの水田の跡があります。現在作業中でかなり明るくなったことが分かります。



R地点作業前 (2019年9月21日)



R地点作業中 (2019年12月10日)

右写真は上写真の左奥の部分で小区画の水田跡です。落ち葉や枯れ草が溜まっていますが、全体に浅く冠水している状態です。画面中央付近を右から左に向かって水路が伸びています。水路の手前側が長方形に近い形をした旧水田の区画です。このような区画が画面右の上流に向かっていくつも続いています。

これからの作業で溜まった葉や枝等を除去し、上流からの水が旧水田の区画内に入るように水路を修理して良好な湿地に戻るようにするつもりです。



R地点作業中 (2019年12月10日)

これからの作業で溜まった葉や枝等を除去し、上流からの水が旧水田の区画内に入るように水路を修理して良好な湿地に戻るようにするつもりです。